

この検査は、角膜の形状を詳しく調べる検査です。

主に、円錐角膜^{えんすいかくまく}など、強度の角膜乱視^{かくまくらんし}がある場合、どの方向にどれくらい乱視があるか検出します。また、白内障^{はくないしやう}の術前検査としても行います。

乱視とは・・・

角膜の歪みの大きさをいいます。ほとんどの乱視が角膜乱視です。角膜はカメラに例えると、レンズの部分に相当します。レンズが歪んでいるために、網膜^{もうまく}に鮮明な像を結ぶことが出来ず、物がだぶって見えたり、歪んで見えたりします。乱視も遠視や近視と同じように、レンズ（メガネ）で矯正出来ますが、円錐角膜のように、レンズ（メガネ）では矯正が難しいものがあります。

検査方法は、うずまき状の検査機器の中心を見ていただくだけです。写真を撮るように、角膜の状態を画面に写し解析して等高線の色分布図で表します。検査はほんの数秒です。



OPD-Scan

optical Path Difference Scanning System ARK-10000 角膜形状／屈折力解析装置